



「大阪・関西らしい世界初のスマートIRシティ」の実現に向けて
ーコンセプトの提言ー

2014年12月の衆議院議員選挙で、自民・公明の与党が大勝利し、第3次安倍政権が発足した。自民党は選挙にあたり発表した「重点政策集2014」のなかで「IR(統合型リゾート)の推進等による観光産業の活性化」を掲げた。継続審議中だった「特定複合観光施設区域の整備の推進に関する法律(IR推進法)案」は解散・選挙により廃案となったが、安倍自民党は改めてIR実現を国民に約束したわけで、今月開会される通常国会でIR推進法案の再上程・成立が期待される。

こうした状況を受けて関西経済同友会は「大阪・関西らしい世界初のスマートIRシティ」を、大阪府・大阪府が誘致を表明している大阪ベイエリア地区の人工島「夢洲(ゆめしま)」で実現するためのコンセプトをとりまとめた。

IRは安倍首相が推し進める成長戦略の重要な柱である国際観光振興の極めて有効なツールである。政府は訪日外国人を2030年までに3000万人に増やす方針だが、IRはこれを実現するための核であり、とりわけ急成長するアジアの人々を引き寄せるキラーコンテンツといえる。

私たちが描くスマートIRシティは、家族が憩えるエンターテインメント施設、劇場・映画館、レストラン、関西の歴史・文化を表現するミュージアム、ウエルネス関連施設をはじめホテル、商業施設、国際会議や見本市・研修などを開催するMICE施設とカジノ施設が一体的に配置された複合型観光施設を核とした快適で楽しい環境配慮型都市である。そこにあるカジノ施設の目的は、MICE施設など大阪・関西が世界都市として更に発展するための公共空間を民間が整備すること、および大阪・関西の文化振興や地元産業育成、雇用促進、人材育成等の費用を捻出するための収益補完源であり、総施設面積のわずか数%に抑えている。

今後、IR推進法案と実施法案の上程・成立にむけ、全国各地の自治体がIR誘致活動を本格化させる見込みだが、私たちは日本初のIR建設地として、アジアに近く24時間空港の関西国際空港を抱える「大阪・関西が一番」と確信している。

大阪・関西の最大の強みは大阪・関西のポテンシャルである。関西地区(2府4県)の人口は2,000万人を超え、域内総生産は約80兆円にのぼる。IRの成功には外国人客に加えて日本人がどれだけ利用するかにもかかっており、この人口と経済の規模は大きくものをいう。

大阪・関西は交通の結節点としての機能が優れている点も強みだ。関西国際空港はアジアとのネットワークが充実し「アジアのゲートウェイ」として近年評価が高まっており、今後増加が予想される航空便を受け入れる余裕もある。関西国際空港と一体運用されている大阪国際空港(伊丹空港)や神戸空港もある。国内を移動する高速道路・鉄道網も十分整備されている。

歴史・文化遺産や現在の最先端技術が集積する大阪・関西ならではのIRを創出できる点も極めて特徴的だ。我が国の国宝・重要文化財の半数と5か所の世界文化遺産が関西にある。外国人に人気の高い京都、神戸、奈良は大阪から30分～1時間圏内だ。IRという現代と日本の歴史・文化の双方に触れることは外国人に大きな魅力となろう。

大阪・関西IRに滞在し、そこから関西そして全国各地を訪れる「広域観光ルート」を確立すれば、IR推進法案で予定されるはずの「国際競争力のある滞在型観光」を実現できるし、大阪・関西経済のみならず、日本経済全体の活性化に大きく寄与するものと期待される。

「夢洲」に約220^{ヘクタール}という広大な敷地を確保できることも大きな利点だ。これはシンガポールの二つのIRを合わせた3倍、東京ディズニーランドとディズニーシーを合わせた2倍の面積に相当する。世界的な観光集客拠点を創出するには十分な広さで、将来の事業拡張性に富む。周辺にはUSJ(ユニバーサル・スタジオ・ジャパン)や海遊館など世界的なエンターテインメント施設が立地し、相乗効果も期待できる。地権者が大阪市だけなので、用地買収交渉も事業者にとって負担が少ない。地価が東京に比べて数分の一と安いことも事業採算性を後押しするだろう。居住空間から「隔絶」されていることも立地利点といえる。

「夢洲」の課題は大阪市内からのアクセスの強化である。現状は百万人単位の新たな利用客をさばくには脆弱で、市営地下鉄中央線の「夢洲」への延伸、関西国際空港と結ぶ高速道路の整備などが必要と考える。また、津波対策も重要だ。今回の提言ではそれらの解決策を提示している。

私たちは政府に対して、東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年を目標に大阪・関西IRが開業できるようIR推進法・実施法制定などの環境整備を強く求める。「東京のオリンピック・パラリンピック」、「大阪・関西のIR」という「双発の成長エンジン」で、日本をバランスのとれた発展に導くことこそ安倍政権の目指すべき国土政策であり成長戦略のあるべき姿であると考え。これ以上の東京一極集中は国の存立を危うくするだけである。

今回、私たちは予定地に大きなラグーンを配し、単なるIRではなく「スマートIRシティ」の建設を提案している。大阪・関西の有する世界最高水準の環境技術(創エネ、省エネ、蓄エネなどのクリーンエネルギー等)とICT技術を融合して、エコで快適に過ごせる安心・安全な最先端都市を実現し、「リアル・ショーケース」として内外の人々に体感していただく。そして、その成果を世界各国へ「インフラ輸出」すれば、日本経済の成長をけん引する一助になろう。

今回廃案となったIR推進法案に対しては各界各層からさまざまな反対意見が出された。その内容は①ギャンブル依存症②周辺地域の治安悪化③青少年への悪影響④マネーロンダリングや反社会的勢力の関与——の四つに大別される。私たちはこれらの懸念を「極小化」する施策を関係当局に強く求めたい。とりわけ批判が強いギャンブル依存症に関しては、私たちは今回、別添資料にあるように七つの対策を提言する。

大阪・関西IR——それはラグーンを抱き、アジア・太平洋に開かれた「水の都・大阪」の新しいシンボルであり、そして世界最高水準の良質な環境に囲まれた、まさにドリーム・アイランドなのである。

政府と各政党におかれてはIRの日本経済に果たす役割をご理解いただき、今通常国会でIR推進法案の上程・成立をお願いしたい。

大阪府・大阪市には今回提言したコンセプトを実現するよう検討をお願いしたい。

IR(統合型リゾート)

国際会議や見本市、研修などのMICE施設のほか、ホテル、商業施設、レストラン、劇場・映画館、アミューズメントパークなどがカジノと一体となった複合観光施設。

目次

はじめに	1
夢洲の強み	5
関西の強み	7
コンセプト	9
提言1 都市機能 Multi Entertainment	11
提言2 都市デザイン Symbol Lagoon	15
提言3 インフラ Smart City	19
提言4 アクセス Direct Access	21
提言5 事業スキーム All Kansai Project	23
提言6 スケジュール Target Year 2020	25
大阪・関西全体への波及効果	27
(参考資料1)経済波及効果	29
(参考資料2)IRとは何か	31
(参考資料3)MICE施設規模の考え方	33

他にはない立地ポテンシャルを活かして 世界的な競争力を持つIRを創造

立地ポテンシャル1 壮大なスケール

複数のIRが立地できるほどの敷地規模を活かし、世界スケールの観光集客機能を集積することが可能

立地ポテンシャル2 海に囲まれた別世界

海に囲まれたまっさらな土地であることを活かし、日常生活と切り離された別世界を演出することが可能

立地ポテンシャル3 アジアの玄関口

関西国際空港をはじめとする広域交通拠点や周辺都市と高速道路で1時間以内で直結。鉄道や舟運の強化も可能

立地ポテンシャル4 観光資源の集積

バイエリアには年間1,000万人が訪れるユニバーサルスタジオをはじめ、海遊館、舞洲アリーナ等が集積

夢洲

舞洲

舞洲
アリーナ

メガゾーラー
「大阪ひかりの森」

ユニバーサル
スタジオ

海遊館

天保山

ATC

咲洲

提案対象用地
約220ha

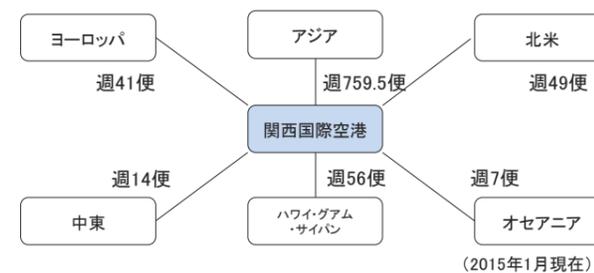
世界の統合型リゾートとの規模比較(同スケール)



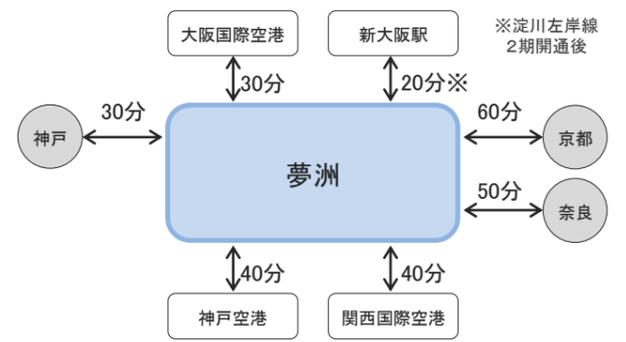
広域交通拠点・主要都市とのアクセス

国際線ネットワーク

- 就航会社 66社
- 就航都市 70都市
- 就航国(地域) 24国・地域
- 就航便数 926.5便/週



高速道路アクセス



関西の歴史・文化、最先端技術を活かした 関西ならではのオリジナルIRを創出

文化

関西には、日本文化を牽引してきた伝統芸能や工芸品等の上方文化がある一方、現代アートや音楽等の新しい文化も生み出しており、世界的な評価を得ている多様な文化が数多く存在



文楽 (提供: 国立文楽劇場)



伝統芸能



落語



祭り



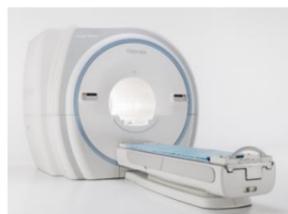
現代アート



和食

産業

関西イノベーション国際戦略総合特区や国家戦略特区にも位置づけられているライフサイエンスや新エネルギー分野をはじめ、世界をリードする産業が数多く存在



先進医療



太陽光発電



スーパーコンピューター



創薬



水素ステーション



ものづくり

まち

大阪では、水都イベント、イルミネーションや光のイベント、大阪城や御堂筋・うめきたでのみどりの形成等、「水」・「光」・「みどり」を都市ブランドに掲げたまちづくりを推進



とんぼりリバーウォーク



中之島ウォーターファンタジア



大阪観光局(公財)大阪観光コンベンション協会
大阪城公園



水都大阪フェス



大阪観光局(公財)大阪観光コンベンション協会
御堂筋イルミネーション



御堂筋フェスタ

歴史

京都や奈良、紀伊山地をはじめとする世界遺産や国指定の重要文化財等、関西には世界的に有名な日本文化や歴史的な資産が豊富に存在



大阪城



清水寺



金閣寺



高野山



法隆寺



東大寺

KANSAI





【コンセプト】

夢洲の強み × 関西の強み



大阪・関西らしい 世界初のスマートIRシティ

【スマートIRシティを実現する6つの提言】

提言1 都市機能

Multi Entertainment

壮大なスケールと関西の強みを活かした世界最高水準の観光集客機能を集積

提言4 アクセス

Direct Access

世界と関西をつなぐゲートウェイとして空港や周辺都市との直結動線を強化

提言2 都市デザイン

Symbol Lagoon

水の要素を取り入れ、浪華八百八橋の原風景をモチーフにした水都大阪のシンボル都市

提言5 事業スキーム

All Kansai Project

IR事業を核として、関西ひいては日本を元気にする様々な仕組みを構築

提言3 インフラ

Smart City

関西が世界に誇る環境技術・ICTを結集した世界最高水準のスマートシティ

提言6 スケジュール

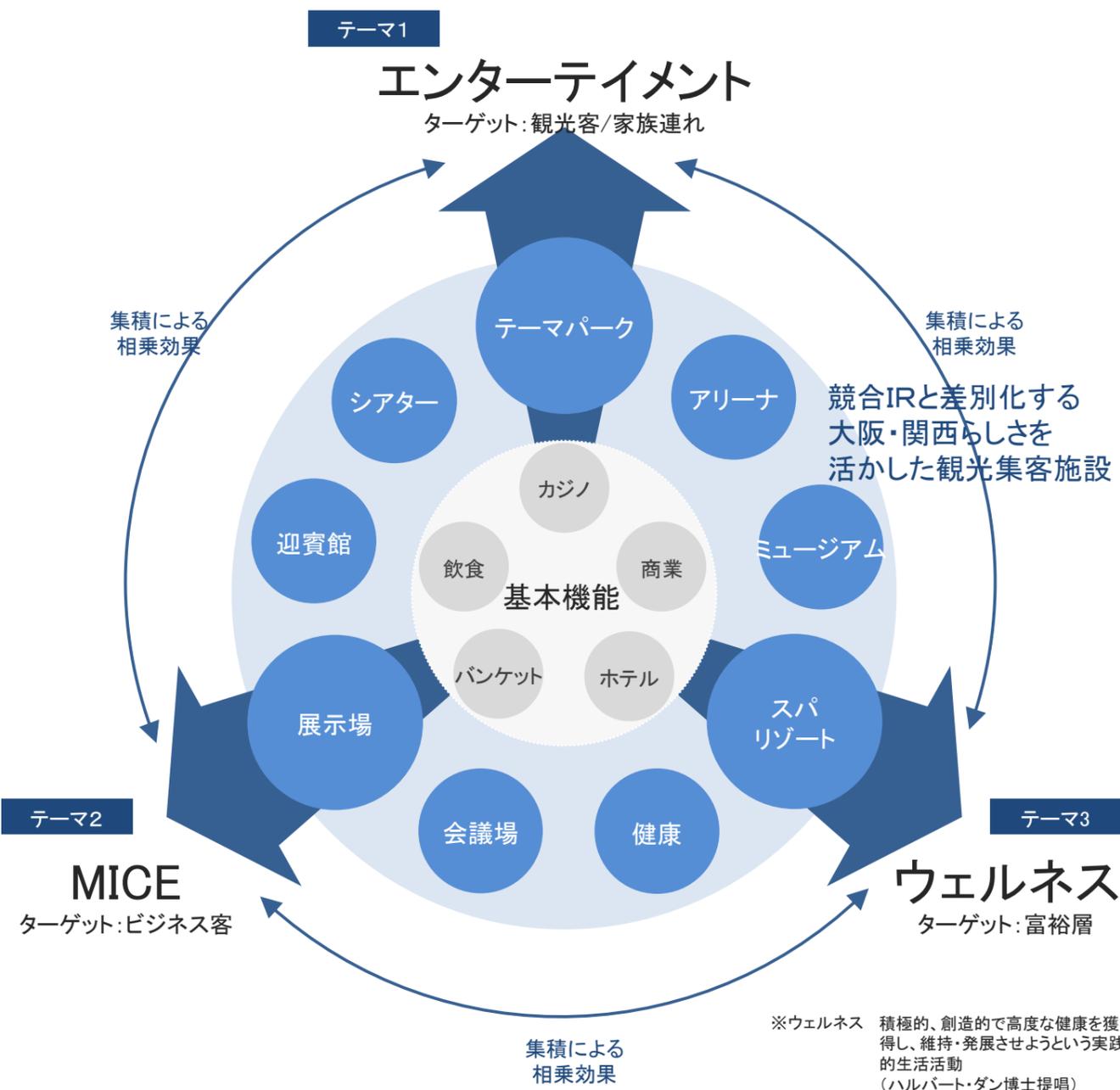
Target Year 2020

東京オリンピック開催の2020年を目標に官民が連携して事業を推進

壮大なスケールと関西の強みを活かした 世界最高水準の観光集客施設を集積

提言

- スケールを活かして**ターゲットの異なる複数テーマ**で集客機能を集積し、富裕層から家族連れまで幅広い集客を実現
- **関西独自の文化、最先端技術**を活かしたここでしか体験できないエンターテインメントやホスピタリティを提供し、世界各都市のIRと差別化
- カジノの収益をもとに**世界最高水準**のスケール、クオリティを持つ集客機能を集積し、世界的な集客力を確保



子供からシニアまで三世代で楽しめる世界水準の集客拠点

エンターテインメント

テーマパーク

ラグーンを活かした遊んで学べる体験型テーマパーク
夢洲ならではの広大な敷地、海上立地を活かした世界最大級の体験型テーマパークの設置



ラグーンを利用した水族館



体験型動物園



広大な敷地を利用した体験型植物園

シアター

関西・日本の歴史・文化を発信する固定席の劇場
世界的に評価されている日本発・関西発の文化を活かしたオリジナルプログラムを開催



伝統楽器のパフォーマンス



伝統楽器のパフォーマンス



伝統芸能

アリーナ

スポーツや音楽の殿堂となるアジア最大規模のイベント会場
日本が強みを持つスポーツや音楽ライブを開催。選手育成や文化創造の拠点としても活用



スケートショー



海外でも人気の高い相撲



J-POPの殿堂

ミュージアム

関西各地の観光資源を楽しめるミュージアム
世界最先端の技術を活かし関西各地の観光資源を体験できるミュージアムの設置



デジタル技術を駆使したミュージアム



VR関西トリップ



伝統工芸品

壮大なスケールと関西の強みを活かした 世界最高水準の観光集客施設を集積

アジア最大規模の展示場、会議場を持つMICE拠点

MICE

展示場

関西のビジネスコンテンツの発信拠点となるアジア最大級展示場
アジア最大級の展示場を整備し、日本・関西が強みを持つ産業分野のビジネス見本市を開催。見本市のノウハウを蓄積、パッケージ化し海外へ展開



大規模展示場



ビジネス見本市



イベント

会議場

展示場と一体で多様な国際会議に対応するアジア最大級の会議場
アジア最大級の国際会議が開催できる会場を設置して、関西が強みを持つ産業分野の国際会議を開催。中・小規模の会議場も多数設置して、あらゆる会議に対応



大規模会議場



多彩な会議場



多彩な会議場

迎賓館

和の文化、もてなしを提供する迎賓館
アフターコンベンションの会場として、日本庭園を配置した和風建築の迎賓館を設け、お茶の体験等、和のもてなし、和の文化を提供



日本庭園



和室



茶道体験

富裕層をターゲットにした大人のリラクゼーション観光拠点

ウェルネス

スパリゾート

夢洲ならではの眺望と上質な美容サービスを提供するスパリゾート
夢洲でしか味わえない眺望、夜景を満喫できる露天風呂を上層階に設置。心も体もリフレッシュできる最新の美容サービスを提供



露天風呂



一望できる大阪の夜景



タラソテラピー

健康

世界最先端の技術力を活かした医療・健康分野のサービス拠点
日本が高い技術力を誇る健康分野のサービスを展開。主に外国人をターゲットにした最新医療機器による健診センターを拠点に、関西周辺の医療拠点と提携した最新の医療・美容サービスを提供



外国人向けの健診センター



スタジオ



フィットネス

リラクゼーション

最上級の和のもてなしを提供するリラクゼーション施設
ラグーンを活かしたラグジュアリーヴィラや高級旅館を設け最上級の和のもてなしを提供。スパや健康施設と連携し長期滞在型のウェルネスツーリズムの拠点としても活用



高級旅館



ラグーンを活かしたラグジュアリーヴィラ



和のオーベルジュ

水の要素を取り入れ浪華八百八橋の原風景をモチーフにした水都大阪のシンボル都市

大阪のまちなみは、縦横に走る川が堀によって形作られ、昔から数多くの橋が架けられてきた。

「浪華八百八橋」は、橋がまちの発展に大きく寄与してきたことを言い表す言葉である。

この八百八橋の原風景をデザインモチーフに、人びとの夢が行き交い、水都大阪のシンボルとなる海上都市を創造する。

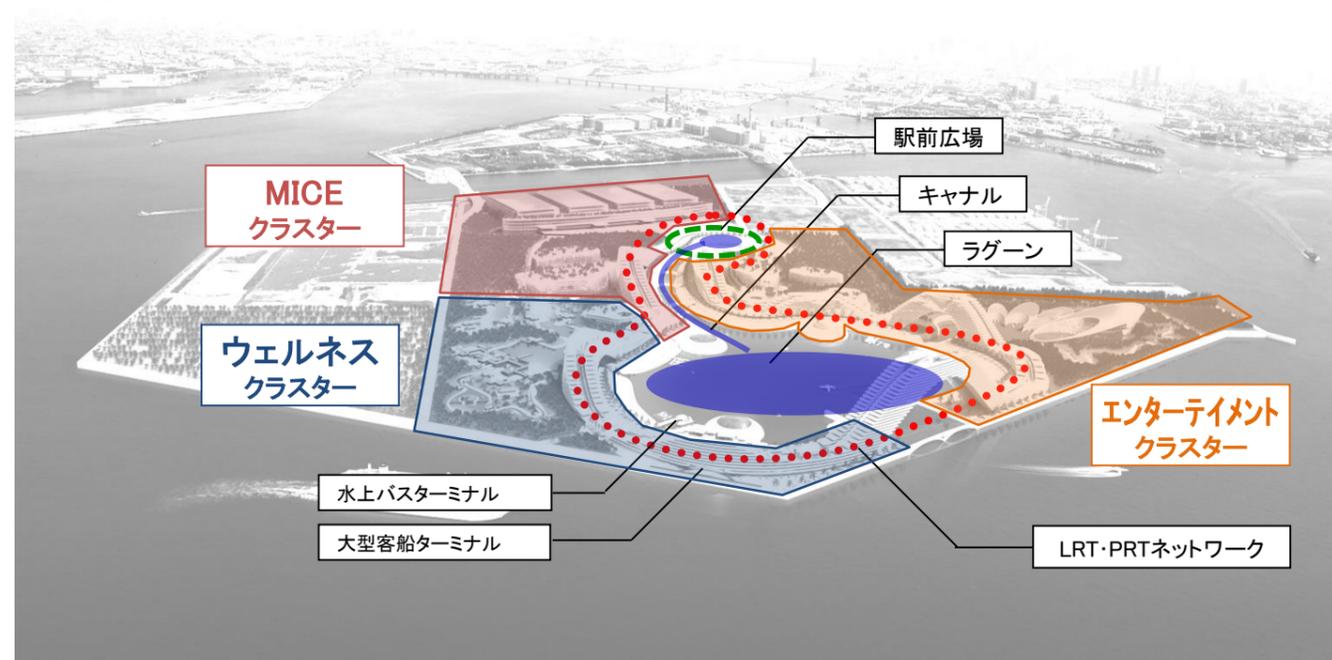


水の要素を取り入れ浪華八百八橋の原風景をモチーフにした水都大阪のシンボル都市

提言

- ラグーン等の水の要素を取り入れ、大阪の原風景「浪華八百八橋」をデザインモチーフとした統一デザインにより、**水都大阪の新たなシンボル**の創出
- エリア全体を複数のクラスター(テーマ毎のまとまり)で構成し、将来の変化に応じた**段階的な開発**に対応
- 歩行者と共存する環境配慮型LRTやラグーン・チャンネルを活かした水運等、エリア内を楽しく回遊できる**人にやさしい交通手段**を導入

クラスタープランニング



LRT: Light rail transit PRT: Personal rapid transit

施設規模イメージ

IRに導入する機能		規模設定
MICE	展示場	展示面積: 350,000㎡(将来拡張: 300,000㎡含む)
	会議場	50,000㎡(10,000席)
	ミーティング・バンケット	30,000㎡
エンターテイメント	テーマパーク	敷地面積: 20ha
	アリーナ	15,000席
	ホール	5,000席
	シアター	2,000席 × 2ヶ所
	ミュージアム	10,000㎡
ウェルネス	スパ施設	10,000㎡
ホテル	宿泊	7,000室
商業施設	店舗面積	100,000㎡
カジノ	延床面積	全体施設の3%程度

水都大阪の新たなシンボルの創出

まちの骨格となる水の空間とデザインモチーフ

- ・水都大阪のシンボルとなる大規模なラグーンとチャンネルを設けまちの骨格を形成
- ・水上バス等による外部との節点、内部の移動やアクティビティとしても活用し非日常空間を提供
- ・大阪の原風景「浪華八百八橋」をデザインモチーフとした建築デザイン等により統一的なまちづくりを演出



外海と接続したラグーンとチャンネル



域内交通・観光手段となる舟運(イタリア・ヴェネチア)

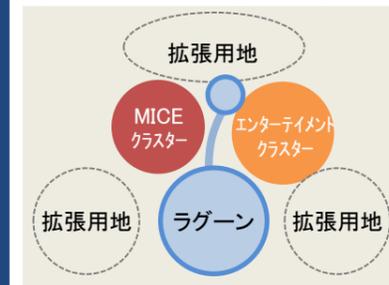


橋をイメージした統一感ある建築デザイン

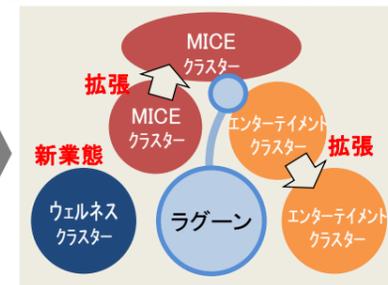
段階開発にも対応したプランニング手法

テーマを持ったクラスタープランニング

- ・夢洲の220haという広大な敷地を踏まえ、IRの主要構成機能を複数のクラスター(テーマを持った集合体)として設定し、各クラスターで段階的に開発を進めていくプランニング手法を提案
- ・各クラスター内に特色のあるコア機能をもたせ、まちとしての多様性を創出



I期開発イメージ(2020年目標)



開発の拡張イメージ

クラスター	機能
MICE クラスター	I期 会議場、展示場 II期 ホール、大規模展示場
エンターテイメント クラスター	I期 アリーナ、シアター II期 テーマパーク
ウェルネス クラスター	I期 (暫定利用) II期 スパ、シアター、ミュージアム

各クラスターのコア機能イメージ

まち全体をつなぐ域内公共交通ネットワーク

LRT等による域内トランジットモール

- ・車によるアクセスを制限し、域内をLRTやPRT、水上交通等の公共交通で結び、まちの回遊性を向上
- ・交通手段自体がまちに溶け込んで景色の一部となるようなデザインルールを導入
- ・積極的に新技術導入を検討し、低炭素かつ人にやさしいまちづくりを実現



低床型LRT(ストラスブール)



チャンネルのクルーズ船(コペンハーゲン)



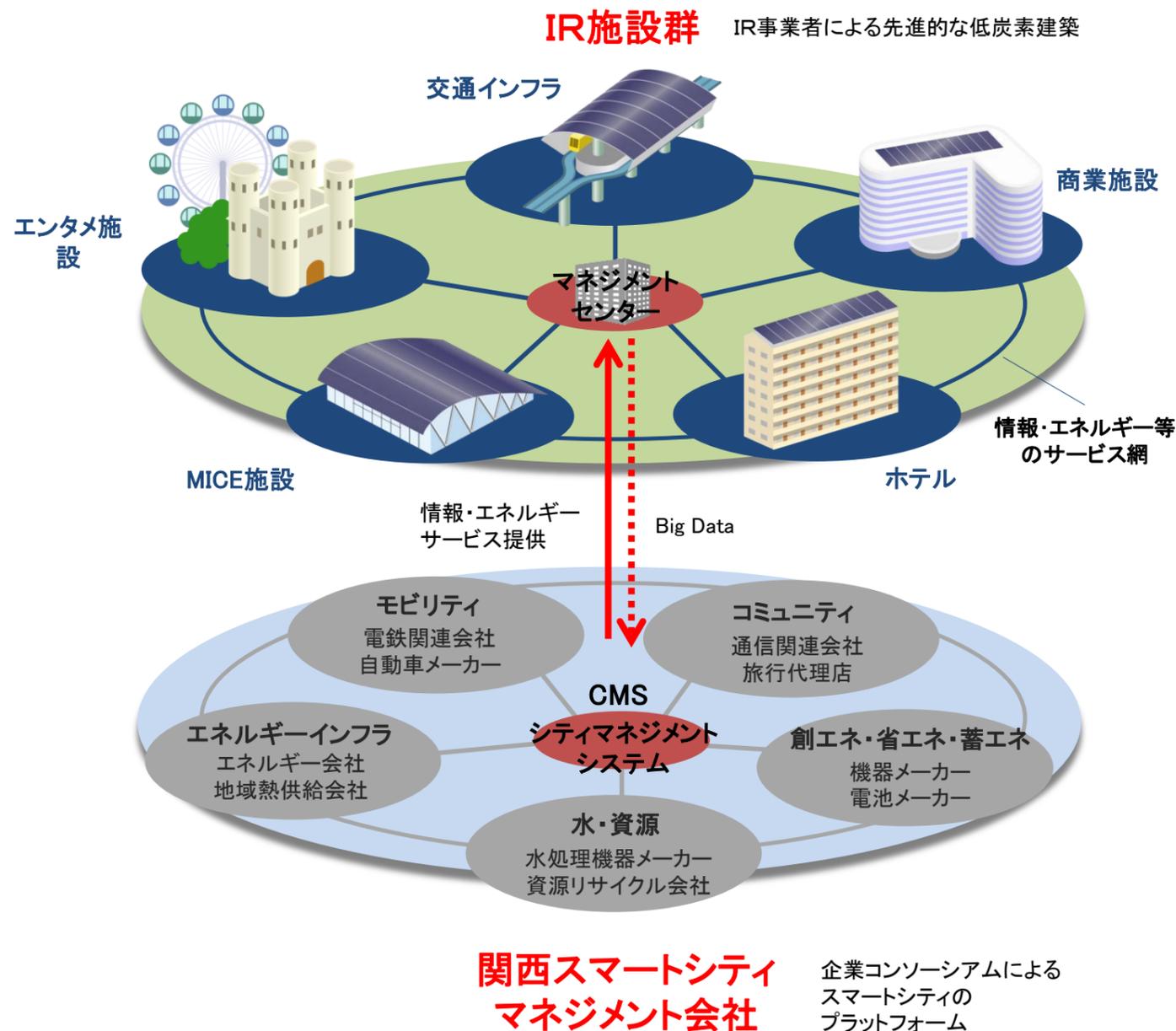
将来的には新技術による域内移動を実現

関西が世界に誇る環境技術・ICTを結集した世界最高水準のスマートシティ

提言

- 大規模な新都市開発という好機を活かし、海外へのパッケージ輸出を前提とした**世界最高水準のスマートシティ**を実現
- 関西の環境・ICT関連企業コンソーシアム**が、まちを開発・運営するプラットフォームを先行準備し、IR事業者が建設する施設群と連携
- 津波の侵入を許さない地盤高や、多角的なエネルギー源と充実した共助システムにより**世界最高水準の防災都市**を構築

関西企業が中心となった企業コンソーシアムによるプラットフォーム構成イメージ



**関西スマートシティ
マネジメント会社** 企業コンソーシアムによるスマートシティのプラットフォーム

ICTが言葉の垣根を取り去り、世界中の人々が自由に楽しめるまち

ユニバーサル・コミュニケーション

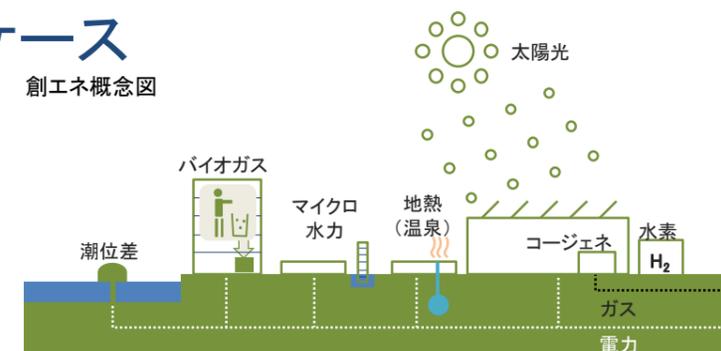
- 全世界から集客する観光都市にふさわしいウェアラブル端末等による言語バリアフリーなコミュニケーション環境を実現
- 来訪者の嗜好とイベント等のエリア情報をマッチングし、オーダーメイドの観光ルートを発信
- パスポート等の個人IDと連動した統合チェックインシステムにより、入退場や支払いをICカード等の携帯のみでフリーパスとなる利便性を提供すると共に、依存症対策プログラムを厳格に実施



創エネ・省エネ・蓄エネ及び資源リサイクルの世界に先駆ける実証都市

グリーンパワー・ショーケース

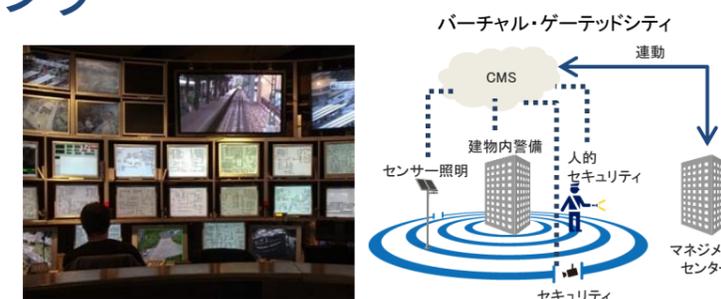
- 太陽光発電等の創エネ先端研究の実証都市を推進
- 建築照明・街路灯への先端照明技術採用、パーク&ライドやEVバス活用による徹底した省エネ推進
- 創エネ・省エネを支える、蓄電池システム、マイクロ水力・貯水システム等の蓄エネ先端研究を実施
- 海水淡水化、下水汚泥の消化ガス・バイオガス発電等、徹底した資源リサイクルシステムを構築



情報・エネルギー・サービスのネットワークを統合した次世代インフラのモデル都市

マルチネットワーク・インフラ

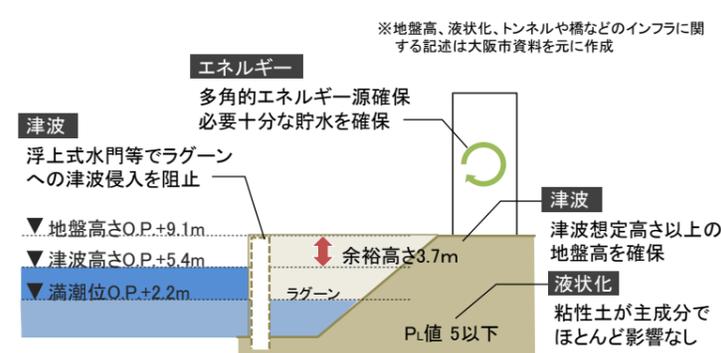
- 多様化するエネルギー産業の実証実験の場として、「電気・熱・水素」の複層的なインフラを整備し、ICTによりエネルギーのベストミックスを検証
 - 開放的でありながらエリアをカバーする重層的で死角のないバーチャル・ゲーテッドシティを構築
 - LRTとパーソナルモビリティを活用したTOD(公共交通優先型開発)により、利便性の高い域内ゼロカーボン交通システムを両立
- (注)バーチャル・ゲーテッドシティ:ゲートや柵で閉じることなく、今まで以上の安全性を確保するセキュリティシステム



安心・安全を保証する世界最高水準の防災都市

レジリエント・アイランド

- 津波の侵入を許さない地盤高の確保・水門の整備と液状化の影響をほとんど受けない地盤
- 耐震性が確保されたトンネルや橋による多様なアクセスの確保
- 多角的なエネルギー源の確保、必要十分な貯水等による災害時にもエネルギーの途絶えない島
- 迅速な災害情報の提供や避難誘導、備蓄提供などの充実した共助システムを提供



世界と関西をつなぐゲートウェイとして 空港や周辺都市との直結動線を強化

提言

- 空港や新大阪と夢洲を**直結**させるリムジンバスやシャトル船等の乗り換えなしの交通手段を強化し、アクセス性を向上
- 夢洲を拠点に大阪都心部の水の回廊を巡る舟運や関西各都市及び周辺施設(USJ等)とのシャトル便等を拡充し、**既存観光資源との回遊性**を強化
- 次世代エネルギーを動力とする魅力的なデザインの乗り物(バスや船等)を導入し、移動そのものを**アトラクション化**



舟運アクセス

世界最大級の客船が航行できる強みを活かして大型客船用ターミナルの設置及び出入国手続きの実施

関西空港、神戸空港等と次世代エネルギーによる高速シャトル船で結び、空港からのアクセス性を向上

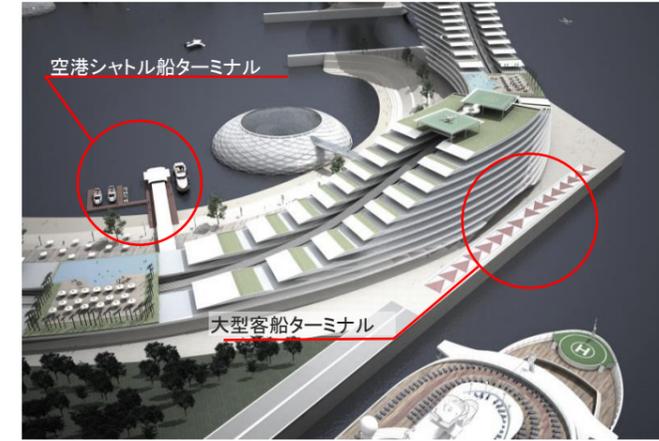
ベイエリアや大阪都心部の口の字型の河川等を回遊する舟運を整備し、既存観光拠点との回遊性を強化



大型客船イメージ



高速シャトル船イメージ



客船ターミナル

道路アクセス(提案)

I期開業までに淀川左岸線の2期区間を開通し、新大阪駅や周辺都市とのアクセスを大幅に向上

阪神高速湾岸線と直結するIR専用橋を設置し、周辺物流施設のアクセスとの混在を回避

電気や水素等の次世代エネルギーを動力とする環境にやさしい専用シャトルバスの導入



専用シャトルバスイメージ



専用シャトルバスイメージ



新設するIR専用橋イメージ

鉄道アクセス(提案)

I期開業までには、咲洲から夢洲までの南ルート(地下鉄中央線延伸案)を整備

I期開業時に合わせて、弁天町駅におけるJR環状線と地下鉄中央線の乗継ぎを改善することを検討

II期開業までには、桜島から夢洲までの北ルートを整備(JR桜島線延伸案or中之島新線延伸案)



JR桜島線の延伸



夢洲新駅イメージ

駅前交通ターミナル

夢洲駅付近に鉄道、バス等の公共交通と、LRT、PRT、クルーズ船等のIRエリア内交通の結節拠点を設けスムーズな乗り換えを実現



駅前交通ターミナルイメージ

IR事業を核として、関西ひいては日本を元気にする様々な仕組みを構築

提言

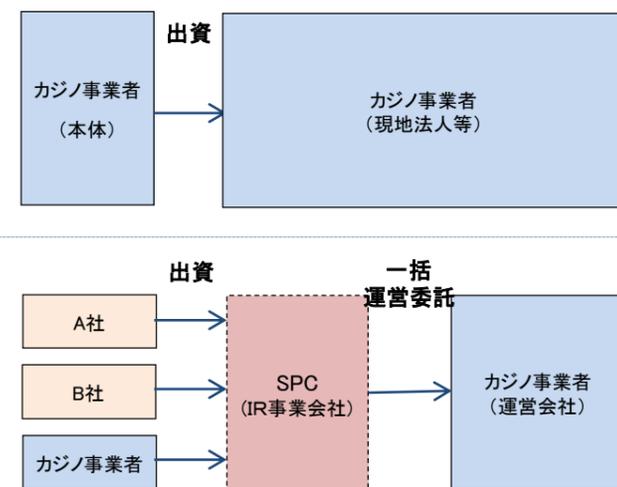
- カジノ事業者が直営もしくはカジノ事業者に一括の運営委託ではなく、**日本企業が主体的に関与**する事業スキーム検討を提案
- **カジノの収益**を公共性が高いインフラ整備や文化性が高い施設運営に**還元**する仕組みを導入し、関西の文化、経済を振興
- IRの施設と収益を活用して、関西発のコンテンツ(文化・観光・スマートシティ等)を育成・発信するための組織を**官民連携**で設立し、関西経済全体を活性化

日本や地域を元気にする仕組み

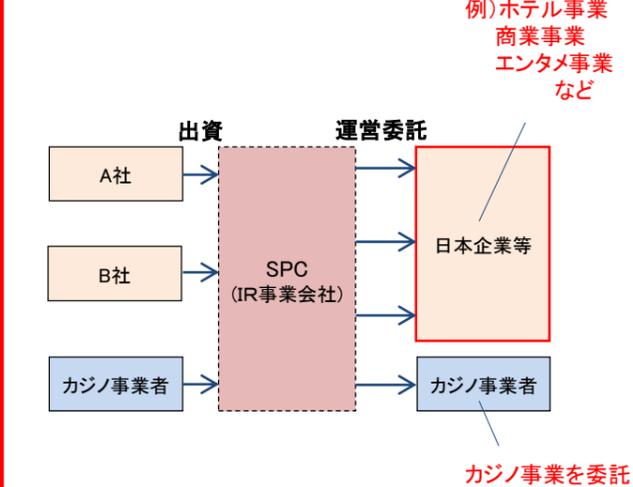
日本企業が主体的に参画する事業スキームの構築

カジノ事業者と共に日本企業が事業に参画する方式として、カジノ事業者が直営、もしくはカジノ事業者に一括して運営委託する(図①)のではなく、日本企業が主体的にホテルや商業施設、エンターテインメント等の事業を行うスキーム(図②)を提案。日本企業がリードすることで、実績のある事業者の力を結集させることができ、政策に合致した事業推進やノウハウの蓄積が可能

①カジノ事業者が直営もしくは一括運営委託



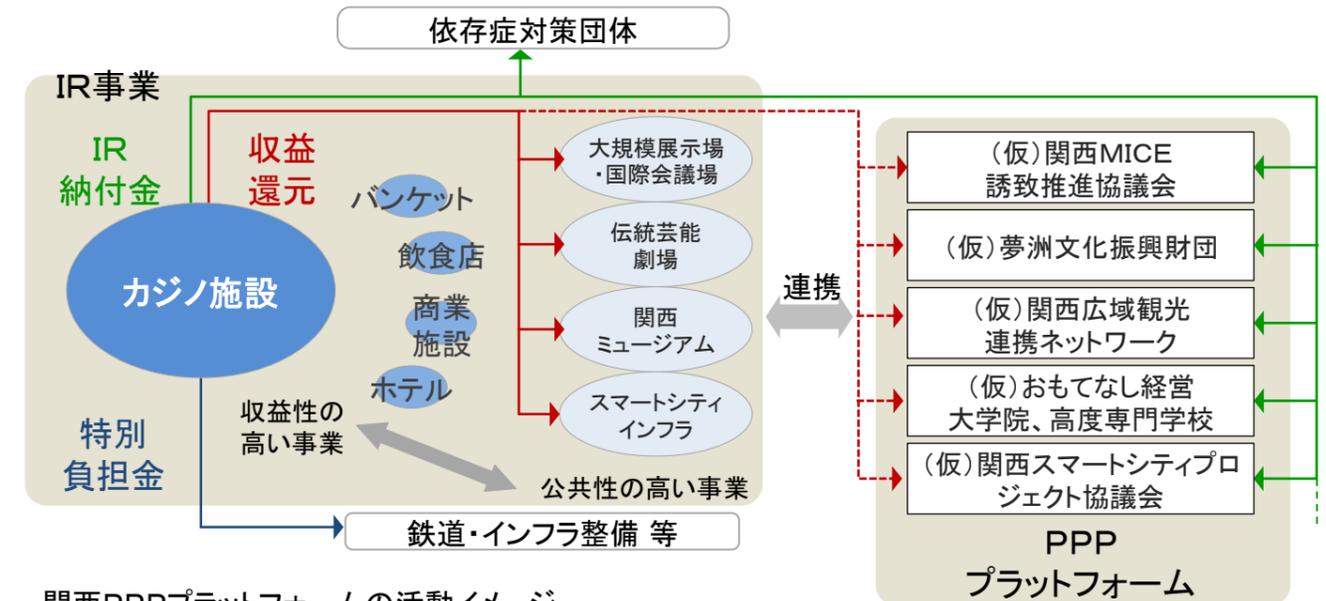
②日本企業が事業に主体的に参画するスキーム



関西がひとつになり、関西発のコンテンツを育成・発信

関西PPPプラットフォームの構築

IR事業者が主導して、関西発コンテンツの育成・発信を目的としたPPPプラットフォームを分野ごとに組成し、広域的な連携体制を構築するとともに、カジノ施設の収益をPPPプラットフォームに還元することで、継続的な活動を支える仕組みを構築



関西PPPプラットフォームの活動イメージ

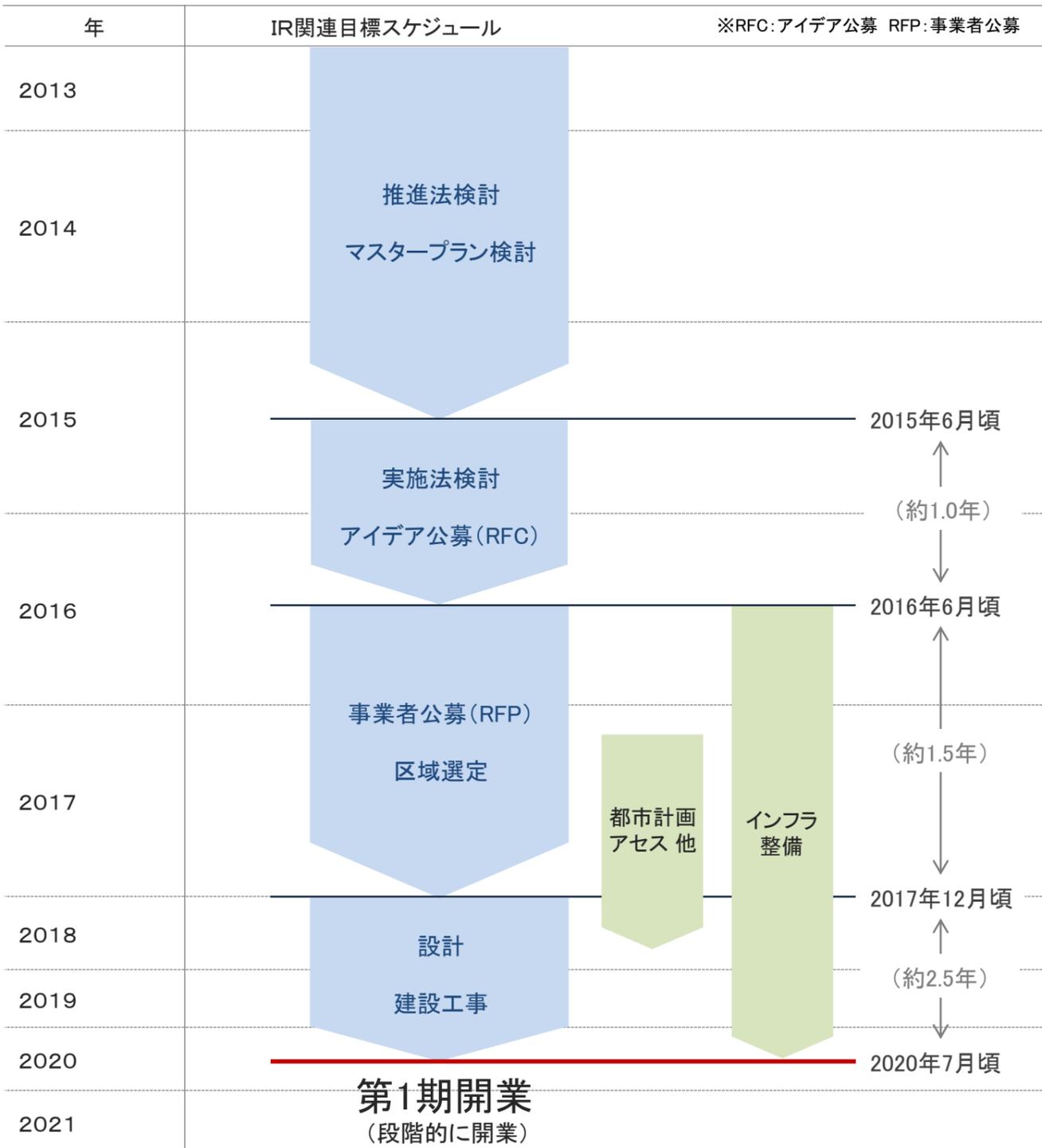
カテゴリー	プラットフォームイメージ	連携団体・企業イメージ	プラットフォームの活動イメージ
MICE振興	(仮)関西MICE誘致推進協議会	・MICE施設PCO(注) ・コンベンションビューロー ・旅行代理店 等	・関西独自の国際ビジネス見本市の開発 ・国際的見本市、会議の共同誘致活動 ・ユニークベニューの開発
文化振興	(仮)夢洲文化振興財団	・伝統芸能団体 ・芸術系大学、専門学校 ・メディア、放送局 ・アーツサポート関西 等	・日本文化のプログラム企画、主催 ・アーティスト、パフォーマーの育成 ・関西伝統芸能の海外発信(文楽・能楽・歌舞伎等) ・グラミー賞やエミー賞のような権威ある賞の設定とイベント開催
観光振興	(仮)関西広域観光連携ネットワーク	・関西広域連合 ・自治体観光組織 ・観光ビューロー ・バス・鉄道事業者 ・旅行代理店 等	・IRとセットのパッケージツアーのプログラム企画 ・海外代理店、観光見本市でのプロモーション ・バス、クルーズ船の連携調整 ・メディカルツーリズムの企画推進
教育	(仮)おもてなし経営大学院、高度専門学校	・学校法人 ・観光・MICE関連事業者	・ホテル、レストラン、エンターテインメント、国際会議などMICE・IR分野を支える高度な専門的人材の養成
スマートシティ	(仮)関西スマートシティプロジェクト協議会	・国交省、経産省、自治体 ・大学、研究機関 ・エネルギー事業者 ・関連メーカー 等	・IRエリア内でのスマートシティ開発技術、運営ノウハウ等の共有 ・スマートシティ技術パッケージの海外輸出 ・産業観光ツアープロモーション

(注) PCO: Professional Congress Organizerの略
コンベンション等を専門的かつ総合的に組織・企画・運営する専門業者

東京オリンピック開催の2020年を目標に 官民が連携して事業を推進

提言

- 東京オリンピック・パラリンピック開催の**2020年を開業目標**とし、IRを目玉にオリンピックに訪れる訪日客を関西へ誘引
- IR早期開業に向け、交通インフラ等の基盤整備を**官民が役割分担し、実施をめざし連携することが必要**



官民の役割分担と実施に向けた連携

行政手続きの早期着手が不可欠

設計・建築段階における工期短縮を民間努力で進める一方で、ターゲットイヤーを目指すためには行政手続きである都市計画やアセス等の手続きの早期着手が不可欠

公共インフラの整備促進が必要

国内外を問わず広域から集客する施設となるため、現在着手中の事業も含め、公共インフラの整備促進が必要。整備にあたって必要なノウハウや情報を官民で共有し実施を目指す体制づくりが不可欠

年	国	大阪府・市関連	その他(開業・イベント等)
2013			グランフロント大阪開業
2014	ソチオリンピック パラリンピック (冬期)	ユニバーサルスタジオ ハリリー・ポッターのテーマパーク	あべのハルカス開業
2015		大坂の陣400年天下一祭	京都国際現代芸術祭
2016	G8サミット (日本ホスト) リオオリンピック パラリンピック		 関空新LCCターミナルビル(T3) (2016年下期供用開始予定)
2017		百舌鳥・古市古墳群 世界遺産登録めざす 	新名神高速道路開通予定 (城陽～八幡間)
2018	平昌オリンピック パラリンピック (冬期)		
2019	ラグビーW杯(日本)		新名神高速道路開通予定 (高槻～神戸間)
2020	東京オリンピック(7/24～8/9) パラリンピック(8/25～9/6)	大阪万博50周年 	阪神高速淀川左岸線開通予定 (海老江JCT～豊崎間)
2021			関西ワールドマスターズゲームズ

関西の強みを結び付け、発信することで 関西全体に大きな波及効果をもたらす

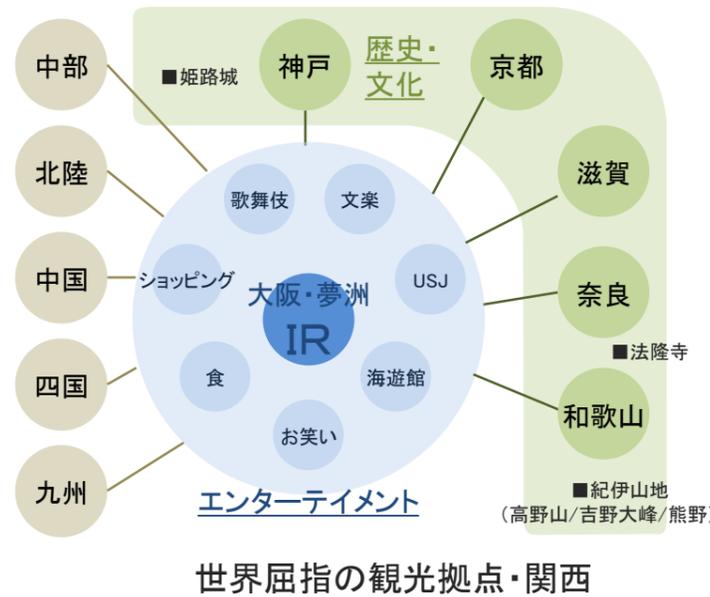
□ 周辺都市を結ぶ交通ネットワークの強化や運営プラットフォームの組成・連携等により、
関西が強みを持つ観光・産業・文化分野でのポテンシャルを相互に結びつけることで、大
阪のみならず関西経済全体の活性化に大きく寄与

波及効果1

関西が世界屈指の観光拠点に

夢洲に世界最高のエンターテインメント施設を新たに集積することで、既存のユニバーサルスタジオ、海遊館、食文化、伝統芸能等の観光資源と合わせて、大阪はアジア随一のエンターテインメントシティとして世界的な集客力を獲得

関空の玄関であり、交通の結節点である強みを活かし、京都、奈良、神戸、滋賀、和歌山等の周辺都市とのアクセスを強化し、関西エリアに集積する歴史・文化遺産との相乗効果を高めることで、関西は世界屈指の国際観光拠点としての地位を確立



世界屈指の観光拠点・関西

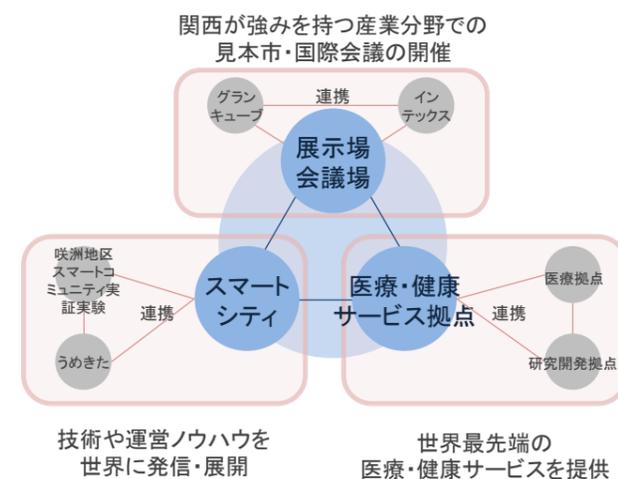
波及効果2

産業競争力を高める

アジア最大級の展示場・会議場を舞台として、関西が強みを持つ新エネルギーやライフサイエンス分野の見本市や国際会議を開催し、同分野における情報・人材のさらなる集積を促進

関西が世界に誇る環境技術・ICTを結集した世界最高水準のスマートシティとして、その技術や運営ノウハウをパッケージとして世界に発信・展開

IRのもてなし機能と関西に集積する医療拠点や研究開発拠点の先端技術を組み合わせることで、世界最高の医療・健康サービスを提供し、メディカルツーリズムを拡大



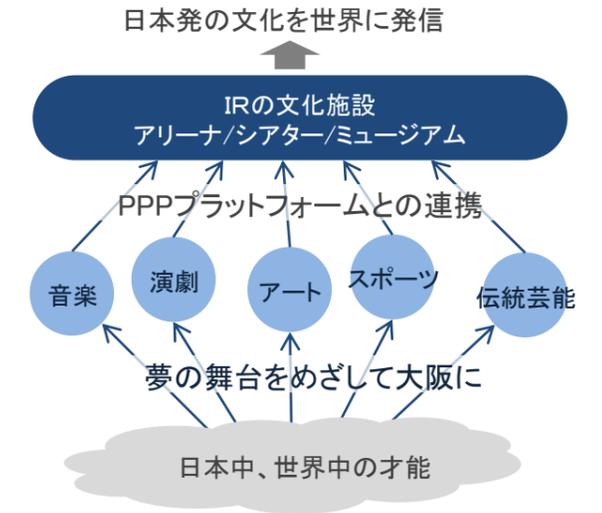
波及効果3

文化の担い手を育む

カジノ収益を活かし、関西で活動する既存の文化施設、団体、アーティストを横つなぎする官民連携のプラットフォーム組織を組成・連携。

IR施設内のシアター、アリーナ、ミュージアムを舞台に、音楽・演劇・アート・スポーツ・伝統芸能など様々な分野で関西発のコンテンツを世界に向けて発信

夢の舞台をめざして各ジャンルの才能が日本中、世界中から大阪に集まり、関西の文化シーンを活性化



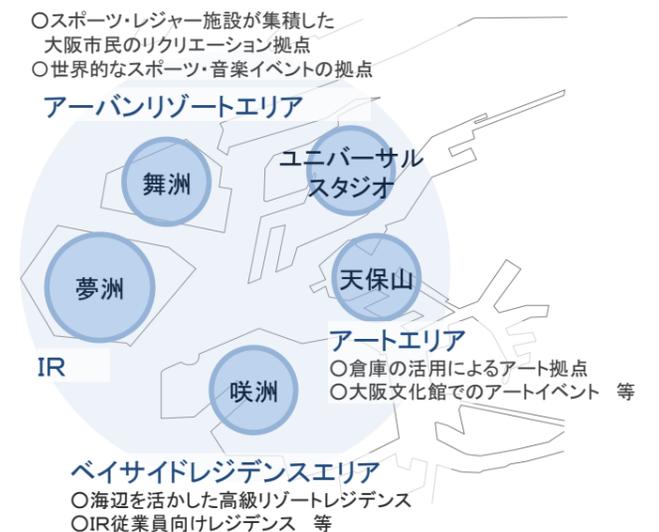
波及効果4

バイエリアの再編

IR開業を契機に交通アクセス強化、集客力向上等、バイエリアの利便性やエリアブランドは大きく向上

そのポテンシャルを活かして各エリアの特性を活かした将来ビジョンを描き直し、遊休地の開発を誘導、促進することでバイエリア一帯を再編

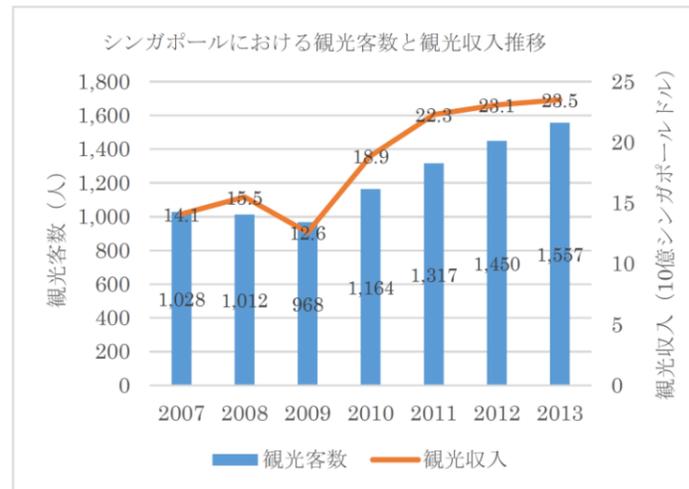
インテックス大阪は将来のIR拡張に合わせてアジア最大級のMICE拠点として夢洲に移転し、その跡地を咲洲エリア活性化のトリガーとして開発



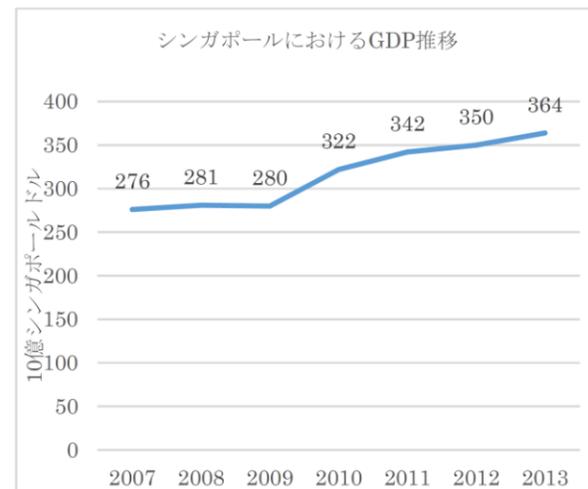
■ シンガポール実績

2010年に開業した2つのIRによる経済波及効果

- ・マリーナベイサンズ(MICE型)
- ・リゾートワールドセントーサ(リゾート型)



(「Singapore Tourism Board Annual Report」より作成)



(「World Economic Outlook Database」より作成)

<現地ヒアリング>

- GDPへの貢献 1.5~2.0% (2011年)
- 税金 11億シンガポールドル(2011年)
- 雇用創出 約6万人(直接2万2000人、間接4万人)

■ 大和総研試算(2014年10月3日公表)

<前提>

大阪(MICE型)、横浜(MICE型)、沖縄(リゾート型)に
シンガポールと同規模のIRを設置することによる全国への経済波及効果を試算

※シンガポールの2つのIR 建設費 109億米ドル

- マリーナベイサンズ(MICE型) 約57億米ドル
- リゾートワールドセントーサ(リゾート型) 約52億米ドル

<試算結果>

建設費 2兆700億円 シンガポールの25%増で計算

- 大阪 7,100億円(MICE型)
- 横浜 7,100億円(MICE型)
- 沖縄 6,500億円(リゾート型)

経済波及効果

- IR建設による経済波及効果(生産誘発効果) 5兆6,300億円
- IR運営による経済波及効果 年間2兆 900億円
- (なお、大阪・横浜・沖縄の個別波及効果は試算していない)

WHAT'S IR?

■IRとは

IR(Integrated Resort)を直訳すると、統合型リゾートとなります。シンガポール政府が2010年に開業した二か所のIR施設開発に際し導入したまったく新しい造語、概念です。しかし、その言葉に含まれる意味は字面以上に深い戦略が織り込まれています。

外形的には、ホテル、レストラン、劇場、国際会議場、アミューズメント施設などいくつかの施設・機能にカジノを組み合わせた複合施設といえます。しかし、シンガポール政府が主導する政策的含意を開発の細部にまで反映することで、民間資本と民間運営によって新たな公共空間の開発が可能となり、産業構造の転換に至るまでの成果を上げているところに注目が集まっています。

大胆に一文でまとめるなら、「IRとは、特定地域で厳しい審査の上選定された事業者に規制緩和の一手段としてカジノ運営権を認め、独占的に営業を行うことによって多くの収益を上げることを許す代わりに、公共空間開発、雇用促進、人材育成、文化芸術支援、地元産業育成など多くの公益に資する事業を義務付ける『税負担なき公共政策』」、と言えるでしょう。

■モノづくりの屋台骨の上にサービス産業を再構築

ではなぜ今、日本でIRが必要なのか、その社会的背景を考えてみましょう。

現在日本は、長きに渡る経済停滞からの脱却と東日本大震災からの復興を実現するため、新たな成長戦略の構築に取り組んでいます。日本経済を再び成長軌道へと定着させるためには、急速に進む少子高齢化や人口減少をはじめとする社会の成熟化等への対応を念頭に、従来の「工業生産力モデル」を超えた「脱工業生産力モデル」とも言うべき新たな産業観の構築が重要です。

しかし、長年にわたり製造業からサービス業への産業構造の転換が叫ばれていながら、いまだに十分な成果を得られていません。その主な理由として、戦後の発展を支えてきた強固なモノづくりの土壌があり、それを優先する各種制度・政策が現存すること、またサービス産業そのものも長らくその低い生産性から脱却できないことがあげられます。

この状況をブレークスルーするためには、日本の巧みなモノづくりの屋台骨の上に、より付加価値の高いサービス産業を育てることが不可欠です。国や地域固有の文化・技術を統合(integrate)、再構築することで、モノ単独でもサービスの切り売りでもない日本独自の新たな産業を生み出すことが喫緊の課題であり、IR導入の要請が始まったきっかけでもあります。

■定住人口モデルから交流人口モデルの産業育成へ

日本政府は交流人口の拡大による経済再生策として、2030年までに訪日外国人3000万人超を達成すべく、観光立国実現に向けた戦略やプログラムを打ち出しています。世界中で観光客を奪い合う都市間競争が激化する中、空港やMICE施設等のインフラ整備、多言語対応や無料WIFIなどさまざまなおもてなし策が生まれています。

さらに近隣のアジア諸国を見渡すと、戦略的観点から国際観光の振興を図るために、続々とIR(統合型リゾート)を導入もしくは計画がなされています。日本でも単にインバウンドの人数だけを追いかけるのではなく、デフレスパイラルにおける価格競争から脱却し、富裕層に向けてどのようなライフスタイルを提示できるか、いかに時間と経験にお金を使う選択肢を提示できるか、等の付加価値の向上が産業として発展していくための大きなカギとなっています。

■税負担なき公共政策

IRには、都市再生、まちづくりの新しい手法という側面もあります。現在、厳しさを増す財政事情から公共事業は大幅に削減され、経年劣化する公共施設・インフラへの対応はもちろん、防災・減災の観点から優先されるべきひとの生命や生活を守るインフラ投資もままならない状況が続いています。

そこでIR事業者には、限定的にカジノライセンスを許諾することで得られるギャンブル収益を、経済効率優先のもと削られがちな非採算部門に充当する一体的経営が義務付けられます。民間の市場原理だけならば回収効率のよいカジノをはじめとする高収益事業を優先、拡大しがちですが、カジノ事業を一定の規模に抑え、低収益事業もしくはまったく収益の上がない公共空間や都市のメルクマールとなる建築デザイン等への投資(公共資本の形成)を政府は条件付けます。IRが「税負担なき公共政策」と呼ばれる理由がここにあります。

■社会問題への対応、考え方

IRにギャンブル産業が含まれる限り、依存症、マネーロンダリング、反社会勢力の介入など懸念される社会問題を避けて通ることはできません。とくにギャンブル依存症問題は、これまでカジノを導入してきた国々でも大きな問題として、政府自らの課題としてその対応に取り組んでいます。

世界中で百数十か国、先進諸国の大半がカジノをすでに法制化して、依存症問題も含め統制していく中、日本でIRを導入するとするならば、これまで手つかずであった公営ギャンブル、パチンコ、ソーシャルゲーム、インターネット、携帯・スマホ、オンラインショッピング等における依存症研究、治療体制も同時に国家が先導して整える必要があります。

また、公害問題と同じく、受益者(企業)が中心となってその社会コストをなくす、または最小化する仕組みが重要です。欧米でソーシャルギャンブラーと呼ばれる、ギャンブルにのめりこむのではなく、社会的なたしなみとして自制的にプレイする人々を啓発しながら育てていくことも必要となります。

■めざすべき日本型IRとは

単なる収益エンジン、集客マシンとしての役割だけなら、日本にIRを導入する意味はさほど大きくありません。IRが政府・自治体に代わり公共政策の一部を担い、人口減少時代の経済成長に資するための綿密な計画づくりとマネジメントを我が国が行えるかどうかによって、日本型IRの意義は大きく変わります。

日本型IRの導入は新たな価値や魅力を我が国に生み出し、観光立国を実体化、サービス産業を高次化するきわめて大きな政策となるでしょう。さらに周辺地域の文化資源を活用、継続的な再投資を促し、既存産業の再生につながる産業モデルの構築をめざすことで、その意義は限りなく大きなものとなると確信します。

アジア最大規模の展示場、会議場を持つ MICE拠点整備を検討



■展示場施設の規模設定

- ・2期30万㎡の展示面積という、日本最大はもちろん、アジア最大規模の展示施設を整備
- ・複層MICE拠点で、ゾーン毎の使いやすさ・移動距離の少なさが特徴

順位	世界	アジア	展示場	国	都市	屋内展示面積(㎡)
1			ハノーバーメッセ	ドイツ	ハノーバー	466,100
2			メッセフランクフルト	ドイツ	フランクフルト	345,697
3			フィエラミラノ	イタリア	ミラノ	345,000
4	1		中国出口商品交易会琶洲展示館	中国	広州	338,000
5			ケルンメッセ	ドイツ	ケルン	284,000
13	2		上海新国際博覧中心	中国	上海	200,000
18	3		武漢国際博覧中心	中国	武漢	190,000
21	4		中国出口商品交易会流花路展示館	中国	広州	170,000
26	5		インパクトエキシビジョンセンター	タイ	バンコク	137,000
31	6		義烏国際博覧中心	中国	義烏	120,000
37	7		成都国際会展中心	中国	成都	110,000
43	8		瀋陽国際展覧中心	中国	瀋陽	105,200
45	9		深セン会展中心	中国	深セン	105,000
46	10		KINTEX	韓国	ソウル	104,000
54	11		新中国国際展覧中心	中国	北京	100,000
54	11		シンガポール エキスポ	シンガポール		100,000

1期・2期合計
展示施設規模
35万㎡

(出典)内閣官房 都市再生の推進に関わる有識者ボード MICE施設機能向上ワーキンググループ(第1回(2012年12月21日)資料)

■MICE施設整備の考え方

- ・1期では、ホテルに隣接する棟に、カンファレンスや中小規模展示会、1万人収容可能な国際会議場を整備(展示面積5万㎡、会議機能5万㎡)
- ・2期では、総展示面積30万㎡という、アジア最大規模の展示場を持つMICE拠点を整備。合わせて1期の稼働状況により1万人クラスの国際会議場も検討。インテックス大阪の代替施設としての位置づけを設定

○1期 MICE施設の概要

導入機能	施設規模	備考
展示・会議機能	展示面積 5万㎡ 会議機能 5万㎡(1万人収容施設含む)	ホテル隣接部に設置

○2期 MICE施設の概要

導入機能	施設規模	備考
展示機能	100m×100m×2ユニット×4ゾーン×3層=24万㎡ 中規模展示施設 約6万㎡	1ユニットの大きさを100m×100mと設定
会議機能	会議施設 1.5万㎡(1万人収容施設含む) →1期の稼働状況等の経済情勢を見ながら規模や最大収容人数の設定を判断	展示場の動線とも近く使いやすい会議室とする

■会議場施設の規模設定

- ・現時点でのアジア内最大規模である、マリーナベイサンズの1万1千人収容規模(8,000㎡程度)と肩を並べる国際会議場を整備

国	韓国			中国			シンガポール	
都市	ソウル	ソウル(コヤン)	ブサン	上海	上海	香港	シンガポール	マリーナ・ベイ・サンズ
施設名	COEX	KINTEX	BEXCO	上海新国際博覧中心	上海国際会議中心	HKCEC	シンガポールエキスポ	マリーナ・ベイ・サンズ
開業	1979年	2005年	2001年	2001年	1999年	1988年	1999年	2010年
最大規模の会議場収容人数	7,000人	6,000人	2,400人	220人	4,000人	8,000人	8,000人	11,000人
総展示面積	38,004㎡	104,000㎡	46,380㎡	200,000㎡	4,400㎡	82,682㎡	100,000㎡	39,427㎡
併設施設	ホテル(有無)	○	×	×	○	○	×	○
	その他の主な施設	大規模商業施設、娯楽施設、映画館、水族館	大規模商業施設	飲食店	飲食店	-	飲食店	飲食店
事業(設置)主体	韓国貿易協会	施設:韓 KINTEX 土地:高陽市	釜山広域市	上海浦東土地開発公社等4社 共同出資	上海国際会議展覧有限公司	香港貿易発展局	国	米国Sandsグループ
運営主体	韓COEX	韓KINTEX	韓BEXCO	Shanghai New International Expo Center Co.,LTD	上海国際会議展覧有限公司	Hong Kong Convention and Exhibition Centre(Management) Limited	Singex Venues Pte Ltd	米国Sandsグループ
	※韓国貿易協会の子会社	※京畿道、高陽市、KOTRAがそれぞれ株式の1/3を所有			※上海国際会議中心と、上海東方国際商社有限公司の共同出資会社	※NWS Holdings Ltdの子会社	※1997年に民営化した元港務局の一部部署	

1期・2期合計
国際会議場
収容人数
2万人
(最大会議場収容人数は1期・2期共1万人)

表の凡例: 最大規模の会議場収容人数5,000人以上 総展示面積100,000㎡以上

(出典)内閣官房 都市再生の推進に関わる有識者ボード MICE施設機能向上ワーキンググループ(第1回(2012年12月21日)資料)